

会 議 録 (要 旨)

会 議 の 名 称	令和元年度浅口市行財政改革推進懇談会		
開 催 日 時	令和元年10月1日(火) 13時30分から14時54分		
開 催 場 所	浅口市役所 第一会議室		
出 席 者 及 び 欠 席 者	<p>【委員出席者】 中村良平会長・井上邦男副会長・佐藤正人・亀高照夫・瀬良憲昭・ 柏原淳・山内悦子・筒井由紀子・妹尾義信・小野隆久</p> <p>【委員欠席者】 森山政子・奥慎二</p> <p>【事務局】 秋田裕理事・徳田政太郎企画財政部長・園部智秘書政策課長ほか 秘書政策課2人</p> <p>【その他】 新田直哉生活環部長・高倉道雄健康福祉部長・井上聡産業建設部 長・小山朋子教育次長</p>		
傍 聴 の 可 否	傍聴可能	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 第3次浅口市行政改革プラン「平成30年度実績」</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) その他</p> <p>5 閉 会</p>		
問 い 合 わ せ 先	<p>企画財政部秘書政策課 電話番号 0865-44-9013 〒719-0295 岡山県浅口市鴨方町六条院中3050 e-mail:hisyoseisaku@city.asakuchi.okayama.jp</p>		

発言者	内 容
	<p>【開会】 13 : 30</p>
事務局	<p>開会、新委員（瀬良委員）の紹介。</p>
事務局	<p>続いて、浅口市長 栗山康彦が挨拶をさせていただきます。</p>
栗山市長	<p>参集の礼。合併から13年経過したが、その間、小さくても成り立って行く政府をつくっていかなくてはいけない、例えば貯金もしていかなくてはいけない、財政調整基金という名前も皆さんご承知でしょうが、今日まで合併して私が引き継いでから言いますと、約2倍に増やしました。しかし、これは2025年問題、あるいは先般の災害があれば多額のお金が一度に出ていく、それから一番大きいのは合併した時の特例です。合併して3町がもっていた時のお金、これを10年間だけは減らさないように国があげようとするものが、10年間で消えました。そうすると13年前にもっていたお金と比較すると10億円近いお金、現金が減っていきます。しかしそれに加えて今まで以上に扶助費、老人、子ども、いろいろお金がかかってくる。そして、さらに今回、臨時職員の任用制度が来年の4月から変わります。単純計算でいけば、今まで払っていたお金の120%から150%余分に必要になってくる。億の単位で人件費が膨らんでくる。こういう目の前に大変なことが迫ってきている。皆さんもご承知とは思いますがやはりこういった状況であっても、投資すべきところにはしっかりと投資をしていかなければならない、だから節約できるところはしっかりと節約していかなければならない、こういった行財政改革をしっかりとやり抜いていかなかったら、持続可能な浅口市にはなれないという思いをもっております。多少皆さん方のお叱りも受けながら、つい最近も「お前らはケチじゃ」と言われ、こういった批判も浴びながら頑張っております。そのためにも今日は皆さん方にもいろいろなご意見をいただきながら、しっかりと市政に反映していきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見を先生の方からお聞きしたい。</p>
事務局	<p>市長は他公務のため、ここで退席させていただきます。次に、中村会長からあいさつをお願いする。</p>

中村会長	今日は懇談会なので審議会よりはリラックスした気持ちで、今日の資料にある歳出を抑制して歳入を増やすことが行革の本質でなんです。そこを行財政改革の昨年度取組について皆さんの評価とご見解をいただきたい。
事務局	ここからの進行は中村会長にお願いする。
中村会長	それでは、議事の（１）第３次浅口市行政改革プラン「平成３０年度実績」について事務局から説明を求める。
事務局	（１）について説明。
亀高委員	<p>本質に入る前に、この前メディアで報道されたが、教育委員会の方で、職員の不正があった。新聞報道だけなので、詳しいことは分からないが、市長、副市長、教育長が１０％給与をカットする、こういう報道がされていて、市民の中にもこれどういうことなのかと率直な意見もある。これだけでなく以前も議会事務局の方で３０万円程のお金が無くなった。これは私も耳にはしていたが、それについては未だに解決していない。こういうことで市民が行政に対するいわゆる信頼関係というもの、かなり疑念を持たれている。したがって疑念を持たれないように、明確な考え方、給与を１０％カットしたからよいという程度でなく、やはりトップのガバナンスというものも、やはり最終的にはトップ、市長、副市長、教育長が問われるのであるのだから、そのガバナンスはどうなのか。そこを明確にする必要があるのではないか。今日の資料にあるが、市政の透明性の確保は書かれているが、具体的に透明性が確保されている点において、私は市民であり地区長もしているが、そのように理解し難い。どういう風になっているのか。先日体育祭があって私も立場があるので市民から聞かれるのですが、私も詳細なことは分からないので、したがって情報開示して膿を出すところはだして、まあそうだと確信が持たれるようにしていくことが、行政改革を進める前提条件として必要なのではないか。</p> <p>次に、市民体育祭についてはさまざまな意見があるが、市長が合併して１３年と言われていたが、合併した当初は、鴨方、金光、寄島</p>

	<p>が独自性を発揮して地域と文化に根差した市民体育祭を行うことはやぶさかではなかったと思うが13年も経っている。現状はどうなっているのかと言うと、私は現場いるのでよくわかるが、競技種目も減って、高齢化・少子化で出る人が少なくなっている。特に寄島は厳しくなっている、鴨方もそうです。したがって実態を把握して3つそれぞれ分離してやるのもよいが、教育委員会に聞くと3町併せて300万円程使っている。場所は別として、ひとつに統一して、現段階で鴨方でも参加する人が増えないということで、辞退している地区もある。そういうことでひとつにまとめてやれば、もちろん財政も節約できるし、それからそれぞれ3町のコミュニケーションもできる。自分達も同じところでばかりでやっていて、他が分からない。コミュニケーションの向上と財政の節減と、それから現状を踏えて、実態に即した市民体育祭のあり方を再検討されてはどうか。もちろんそのためにはアンケート調査というものもした方がよいのではないか。それから関連して花火大会を寄島でしているが、私も交通安全協会の鴨方の支部長もしていて、私自身はそこまで思わなかったが、もう花火大会についても検討した方がよいのではないかという声が根強い。全国的に花火大会をやっているところは、観光目的ですごいのをやっているところもテレビでは見るが、そういう大々的にやっているところは別として、今は岡山市もそうですが、警備とか財政上の問題で花火大会の縮小とか、もうできないということも結構ある。そして花火大会は、678万円の費用が使われていると聞いている。これもアンケート調査をとって本当に皆さんどう思われているのか、やり方についてもどうなのかということ再検討する必要があるのではないか。市民の声を聞いてみてはどうか。</p>
<p>中村会長</p>	<p>2つめ、3つめについては答申にアンケート調査を入れていけばよいのではないか。1つ目のガバナンスについては事務局で願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>ガバナンスの問題については、この度職員の不祥事が起きまして、市民の皆様方には市に対する不信、職員に対する信頼を損なってしまったことに対して大変深く反省しているところであります。また、そういった気持ちを市長、副市長、教育長の給料の減額ということでその意を表したところであります。市に対する信頼、これがすべての基本ではないか、そこが揺らいでいるという大変厳しいご指摘でありました。まさにその通りであると思い、私どもも職員に</p>

対しては、こういった機会に改めて、綱紀粛正、金銭管理の徹底、こういうところを現在やっているところでもあります。平成27年度の盗難の事件もありました。それもまだはっきりとしていないということも、これも厳しいご指摘でございますが、まさにその通りであり、議会でもそのようなご指摘を受けたところですが、このようなことがあると同じことを言うようになるが、二度と繰り返さないという気持ちで、改めて内部の管理、職員への徹底というところを行っているところです。また、情報の開示、透明性というところについては不祥事が続いた場合、比較的速やかにこれを皆様にお知らせして、本当はあまり知られたくないような、恥ずかしい内容ではありますが、できるだけ速やかに、情報を掴んだ時点で、皆様にお知らせし、この度も対応したところでもあります。ただし、平成27年度の盗難事件に関しましてはまだ警察の捜査中であります。今回の不祥事につきましても、新聞等でも報道されていますが、告訴ということになっています。現在警察が入って捜査中というところであり、なかなか多くを皆様方にお伝えできないという点があることを、ご理解いただきたい。それ以外のことにつきましても、様々な媒体を使いまして、市の行政関係の情報、これは可能な限りお伝えをしたいと努めています。ご指摘にありましたようになかなか伝えきれない、行き渡っていないというところは反省するところでもあります。今回のご指摘を踏まえて、いろいろと工夫をしていきたい、また皆様方のご意見を賜りたい。

中村会長

入口でいうと採用の時の面接、入ってからであれば職員の規律に関する研修などいろいろ行って、行政内部だけでなく、いろいろなところへ派遣をして、そういったトレーニングというか、しっかり規律を守るということを徹底していただきたい。

小山教育次長

体育祭については、市の予算もそうですが、地元の人負担が大きいということで、個人の方から、市政にひとことご意見をいただいています。その中で、今委員が言われた持ち回りという提案も出ております。そこでも答えていますが、今、体育祭が3町それぞれ実行委員会方式で行われているので、鴨方も先日大会が終わりましたが反省会、それから金光は日にちが随分経っていますので、次の実行委員会等で、こういったご意見があることを出して、まずは実行委員会の方々の意見を聞くことから始めさせていただきたい。その上で必要だということであればアンケート等も考えてまいりま

<p>亀高委員</p>	<p>す。一点、担当課として懸念しているのが、体育祭は大変ですが、単に健康の増進とか体力の増進ではなく、地域のつながりの大きな手段としての面もある。もし、これを一本化した場合は確実に参加者が減るであろうということで、それをどうクリアしていくかが担当者は悩ましく、これからしっかりと考えてやっていきたい。</p> <p>引き続き、ひとつは市の財政を増やすということで、総社市が多様な性を認め合う社会を実現するための条例、いわゆる性的マイノリティを岡山県で初めて公布した。その後聞いてみると、総社市がそれをしたから、関係者がかなり移住されたと聞いています。そういう点から、浅口市も早い段階で、そのような条例の公布を行ったら、財政面だけではなく人権問題もありますが、総合的に考えて非常にプラスになるのではないかな。</p> <p>それから、職員の意識改革の説明があったが、コミュニティ推進協議会でもいろいろ議論がある。行政は国もそうですが縦割り行政になっていて、縦割り行政という垣根があるとなかなか情報公開ができない。しかし、横断的なネットワークを作ってリーダーとリーダーが絶えず協議をして繋がりを強めることが重要ではないか。自分の部署のことは分かるが、他の部署のことは分からない。コミュニティ推進協議会の場合は少子高齢化ということで、地域おこし協力隊もいるが、地域創造課だけでやるのは無理で、横断的なものをつくってトップを首長にしてやる。これは去年の金光のチャレンジトークで石原コーディネーターが、まちの教訓は提示されても共有がされていない。今度課長は変わりましたが、前の課長もコーディネーターの意見を非常に進めたいと言われて今は異動していますが、一気にいかなくとも横断的なネットワークをつくってリーダー同士が垣根をはずして少子高齢化という大変な事態に立ち向かうという、そういう体制を築くことが、職員の意識改革には重要な視点があるのではないかな。</p> <p>もうひとつは昨年度にも話題で出た職員提案ですが、平成30年度11件提案があって内7件を採用ということになっている。前回は非常に少ないと言われていたが私も同感で、確かに少ない。私も交通安全の運動をしているが、今年総務課に入った人でも仕事が終わったあと、大体毎日2時間位超勤をしている。岡山県庁に行くと幹部の方に聞いても、県庁の灯は夜遅くまで消えない。とにかく正社員と非正規の構造、私はJRに勤めていましたが、JRも乗務員以外は非正規、だからいざ何かあった時、鉄道の事故等対応できない。この前千葉県で事故でもそうだと思う。正社員がほとんどいな</p>
-------------	--

	<p>い、だからいざとなったら下請けの下請けの下請けが対応せざるを得ない。こういった構造になっているから余計にネットワークの形成も難しいし、先ほど言った提案制度もなかなか進まないのではないか。正社員なら提案制度もしっかりやるのだろうけど、その辺の構造も踏まえて、もう少し提案が出て、そしてそれが採用されるという実績を、相互でしょうか、そういうものを行政サイドとしても部長とか責任者が作っていくことが大事ではないか。</p> <p>それから、市長が出向いて出前的な講座をしたとかいうことがあったが、それは非常に積極的だと思う。もっと今後は市長も公務で忙しいと思うができるだけ現場に出向いて、現場の声を聞いていただく、それを積極的に評価しながら、それを更に具体的に強化していただきたい。</p>
<p>中村会長</p>	<p>多くのご意見ありがとうございました。ぜひ答申の中に反映させていただく。</p>
<p>小野委員</p>	<p>先ほど意見があったのですが、私も同じところで、No.26の職員提案制度について、前回私の方からも件数が少ないのではないかと意見を申し上げたと思います。具体的には職員提案制度をよりよくするため、実施方法等見直しを行うとともに、他市町村の取り組み方法の検討を行うと書かれていて、では実際に11件の応募があって内7件が一部採用となっているが、なぜここにこだわるのかと言うと、改革となると、市民の方もそうですが、やはり職員の方の意識改革、これは絶対的に必要だと思っています。そうした中で、こうやって制度等で埋めるように検討した上で11件ということで、これが多いのか少ないのかというと、皆さん感じ方は違うのかも知れませんが、私に言わせれば非常に少ない。実はこの提案制度、私ども銀行にもこの提案制度があって、大体年間で300件超えています。その中で採用、不採用、一部採用があり、ではこの提案誰がやっているのかというと、支店長クラスからパートに至るまで、いろいろな方が提案しています。特に多いのが実務をしているパート、それから若手の行員が圧倒的に多いです。これは当行の例ですが、その辺を捉えまして、それでも11件というのはあまりにも少ないと思うが、その辺りは意識改革です。若手の方にいきなり意識改革をして下さい言うのは、それは無理でしょうから、その辺りはやはり幹部クラスが導いていく、そういう風土があるかどうかを聞きたい。</p>

<p>事務局</p>	<p>職員提案制度の件については、昨年度も件数が非常に少ないとご指摘をいただいているところです。市としては、提案制度を盛り上げたいということで、制度改革を考えております。昨年度に、意見をいただき、ここに書いてありますけれど、個人、個人の職員提案制度は引き続きやっていますが、ひとつテーマを決めて、「職場の働き方改革」ということで、職員自らがどのように働き方を変えていった方がよいのかを、まずチーム、課内で話し合いを行って、課ごとに改革案を提案する。そういった意識改革にも取り組みを始めたところでもあります。先ほど委員から意見のとおり、まだまだ職員の意識改革は不十分と思います。</p> <p>今後も職員提案制度を活かしたものにするために、しっかりと改革をしていきたい。</p>
<p>中村会長</p>	<p>職員提案、行政の政策提案という感じにはなるが、ひとつは提案したことが実行、実施されてそれで施策にどう反映してどう変わったか。</p> <p>成功事例をきちんとフォローして、それをフィードバックしていくような体制をつくっておかないと、提案して採用したけどその後また次の提案時期になってしまった。提案して採択されてそれをやって何がどう変わったか、「PLAN」、「DO」、「CHECK」ではないですが、そういうサイクルの中で、こういう提案があってこれでまちがこう変化したとか、働き方がこう変わったのかとか、一種の成功事例があればまた提案してみようとか、自分の提案したことが活かされるということが一番励みになる。そういうサイクルをやっていただきたい。</p> <p>2つ目は情報発信とあるが、総合戦略のところでは少し課題が出ていて、高齢化、少子化の問題、地域のつながり、新しくやって来た人とどううまくやっていくか、また情報発信と少し離れるが近隣の市町と比べてまちの観光戦略とか宣伝が劣っていて、もっともっとやった方がよいなど、別の会議でテーマとして出て来たことは、行革とか他の総合戦略と総合計画、あるいは労働雇用関係とかいろいろあると思いますが、そこで出て来た意見などをひとつの課題、イグザンプル（例）として、こういったこともいろいろな会議で議題として出ている、そういう項目を見て、こんなことが実際あるのだからということで、自分に照らし合わせてみて、職員として提案していく。ゼロベースからやるというのねらいではありますが、しかしこうヒントを与えたり、行政課題に密着していることに少し水を撒くと、割と提案も出てくるのではないかと。あともうひとつは、報告</p>

<p>筒井委員</p>	<p>会をするとか、報奨制度、表彰制度もありではないか。いろいろなやり方ですね。もっと活性化していただきたい。</p> <p>データはどのように統括されているのでしょうか。民生委員で年々状況を調べるのですが、おかしいところは直したのを包括支援センターに出すのですが、そこが直ってなくてまた同じようなことがデータとしてもらってまたそれを調べに行く、大本のところでデータを下ろしてきているのでしょうか、それが直ってなくて、またそこから、何回も同じようなことばかりをしている。包括支援センターで把握できたなら、そこでそのデータを直して、それを更新していく、そのようなシステムというのがはっきり我々には分かりませんので、何となく同じようなことをして、直っていないなど感じるのです、その辺りはどのようになっているのか。</p>
<p>高倉部長</p>	<p>高齢者の実態調査の件でのご質問ですが、昨年、実は1年休みました。内容をしっかり吟味して、今までずっと調査をして、これをデータとして取り込んで、皆様に提供するというのが本来ではあります、それがなかなか追いつかないのが実態ではありました。そういった反省の中で、1年間かけてどういうことを高齢者の皆さんに聞いた方がよいのか、また対象はどういうふうにしたらよいのかということ協議して、今年度またお願いしました。調査をしていただき手元に調査票がありますので、それを職員で現在、整理をしているところであります。分析等が終わりましたら、今までの反省を元に、今度はしっかりとした入力を行ったデータを、来年度以降は活用して、実態に沿った調査にしていきたい。それを高齢者の方が安心して暮らして行けるようなものに繋げていきたい。ここで仕切り直しをしたということで、ご理解いただきたい。</p>
<p>中村会長</p>	<p>貴重な、重要なデータはホームページで出せるかどうかは別として、少なくとも関係の民生委員の方は、データベースへ随時アクセスして、そののところだけでなく、他のところも、きちんとデータベースを管理して、民生委員の方がそれを見て、この方はこの地区であるとか、いろいろなことを情報交換ができる、チャンスもあると思うので、ぜひデータベース化と、それに関わる人へのデータへのアクセスをきちんとできるよう、ファックスではなく出来ればインターネットを通じて行っていただきたい。</p>
<p>山内委員</p>	<p>資料の中に成果をもっと書けばよいと思うくらい、多岐に渡り職員</p>

の皆さんは大変な中よくやっている。実績一覧の中で、福祉のハンドブックの改訂については、今回言語手話条例の制定がありましたが、それも含め、この中には書いていないが健康ポイント制度、これは自分で目標を決めて1年間頑張ったら、そのポイントで特典がもらえる、これから少子高齢化になり医療費がかさむ中で、各々の健康に対する意識改革は、とてもよくできていると思っている。データベースに関しては私も民生委員ですから、反省がないというか、大変残念だなという面もありますが、これは改革してほしい。それからNo.6のごみ分別ガイドの改訂となっているが、ごみのリサイクルセンターのところが民間に委託され、民間がすごいと思ったところは、今日は出せる日ではありませんといった表示をちゃんとしている。特にこの民間の業者の方は、小学校やいろいろな所に行って、分別のことをしっかりと教えている。だから市の職員にも、そういったことをやっていることに対して、民間の方に対しお礼を言っていただきたいし、しっかり民間の力を借りて行政をやっていかななくてはいけないと感じている。

それから今年大変暑かった中、No.28公共施設の有効活用の中で、お母さんや小さなお子さんたちが休める場所が少ない。集いの広場にしてもあそこは鴨方町の公民館であるので、毎日使えるわけではない。しかし体育館の一部を利用してそこに子どもたちが、ジュースも飲める、お菓子も食べられる場所をこども未来課がつくってくれた。そういった成果の部分をもっと広報で、こんな風にいいことがあったよというお母さんの声を、ともすれば私たちやっぱりどうしても批判的になってしまうのですが、そういった部分も広報の中で、「今年の夏こういったことがあったよ」、「来年はもっと多くの人に沢山のお友達と集まろうね」というようにしていくと、もっと皆さんの意識が前向きになってもらえるのではないかな。しかしこの資料をいただいた時、どうしても私も委員のひとりですから、◎より○とか△という部分に目がいってしまう。そうした中で、No.3市民満足度調査の実施です。岡山県は県の費用として1億円もかけて婚活の活動費をつかっている。浅口市は私も婚活サポーターをしているが、無償でというかボランティアで一人でも多くの方が定住促進に繋がればと思い活動している。このアンケートの中で18歳から35歳のこの方たちの意見について、アンケートというと、市が出している意見に対し、イエスかノーかとか、1、2、3の中から○をして下さいということだけではなく、若者の声、35歳までのママやパパのたちの声を聞く意見の欄をしっかりと設けていただき、それが先ほどの職員の提案もそうですが、市民の若者の提案になるよう

	<p>なアンケートの取り方もぜひ一考していただきたい。</p> <p>それと前回の会議でも申し上げたが、No.27の未利用財産の処分についてですが、金光の耐震が出来ていない竹小学校の下にあるボランティアセンター、そこがどうなっているか聞きたい。あと金額を変えるのは難しいと思うが、いろいろな方の意見を聞くにつけ、受益者負担の見直しは更にも増して意識していただくことが私は大事ではないかと思っている。現在使っている方は、やっぱり特定の人になっている。「おかげさまで、電気代、ガス代、水道代も安くてすんだ」、「毎日お風呂に行かせてもらようる」、それはそれで結構なことですが、それでもそれぞれのお宅の土地や地形の関係で、車を持っている、持っていないでお風呂を利用出来なかったり、いろいろなことがあると思うが、一般的に考えて今どンドンこういった受益者負担に関してはもう少し皆が真剣に考えていこう。だけど使っている方にアンケートを取ると、「それはなるべくこれでやってほしい」と言われるでしょうし、それから大上段に構えて、いやもうこれだけにしますと市の方で言うこともとても厳しくて、批判を受けるかも知れませんが、そこは財政の平等化というか、税金の平等化という部分では皆さんにご理解をいただくような文書でも出して、そうしたことが今後は浅口市のためには必要ではないか。</p>
<p>中村会長</p>	<p>前半部分はもっといろいろな成果、やっていることを、もっと書き込んで、広報活動に努めるのが大事だということで、またそれは補強していただきたい。それと金光のボランティアセンターについての質問についてはいかがか。</p>
<p>事務局</p>	<p>竹小学校の前の旧ボランティアセンターですが、こちらは現在、環境課が倉庫として使っている。耐震化が出来ていないということで、不特定多数の方が集うような場所にするのは、地震があった場合には大変危険であるということから倉庫として利用している。主に市のごみ袋、これは作製した場合ストックしておくというような形で利用している。それ以外としてNo.27の実績では◎とあるように、こういった未利用施設につきましては、今年度もその他、旧寄島公民館、金光の給食センターであるとか、いくつか売却に向けて、少しでも収入を得ようと作業を進めています。</p>
<p>亀高委員</p>	<p>市長の方から財政が厳しいから節約する必要があると言われたが、今昼休憩の1時間電気を切っているが、部署によって、例えば産業</p>

建設部においては、真っ暗と言えば大げさですが、そこは窓があまりないので、暗い中でも市民は行かないといけない。職員は暗い中で弁当は食べて休んでいる。市民課は窓があるから明るいですが、そこまではいかげなものであるという意見があるもの事実です。市民サービスという面からみると、産業建設部に行くこともあるのだから真っ暗な中に入っていくというのはどうかと思う。

それと関連して岡山の方へ業務として行く機会が多いのですが、岡山の市政報告、浅口市も毎月出ていますが、岡山市は紙質が極端に悪いです。浅口市は非常に良いです。真っ白で高価な紙を多分使っている。岡山市はちょっと茶色がかったような色の紙を使っている。だからその辺りもよく検討していただき、極端にサービスが下がるわけではないし、それで運用ができるならそういうことも節約の一環として考えてはどうか。

ある大学の先生から夕張市の話聞いた、夕張メロンで有名な市ですが、財政破綻をして、その破綻した時の市長が北海道知事となっていますが、破綻して10万人から7千人位になって何が一番困ったかという、医療、多くの病院がもうやれない、残ったのはわずかな診療所で医師も一人程度、何かあったら札幌にドクターヘリで行かなければならない。そうしたことから夕張市上げて自分の健康寿命は自分で守るしかない、とことん努力して、その結果健康寿命が全国で一番、人口あたり延びてきているのは夕張です。医療費が一番少ないのは横浜らしいけれど、人口が少ない地域ほどいわゆる健康寿命が長く努力している。だから何かの機会に北海道は遠いですが、そういう教訓を学ぶ場も必要だろうし、それから私が前一回言ったのですが、透析なんか減ったらすごく財政的にお金が浮く、年間500万円位。透析している友達がいるが、皆さんに足を向けて寝られないというくらいです。したがってそういう風にする場合、一般論だけではいけない。そういったことが進んでいる市町村沢山ある。どういう努力をして、透析をされた人が例えば100人いて、今度は次の年は50人になったとか、そういう意味では教訓は何か、厳しい努力をしている、健康というのは努力と習慣ですから、覚えてやるしかない、天から降ってくるわけではありません。だから行政サイドもそういう教訓を踏まえて、今の節減ではありませんが厳しい立場で、やっぱり市民に対し聞いて下さいという程度ではなく、やはり教訓を示して健康寿命を延ばす。健康寿命を90歳くらいまで延ばせば医療費が大幅に減るわけで、そういう気持ちで臨んでいくことが、医療費が沢山かかっているわけだから必要ではないか。

	<p>それから最後に、プランの中に市政アドバイザー制度の設置があるが、市政アドバイザー制度を平成30年度を目途に設置するとあるが、これは30年度でよいのか。31年度ではないのか。あと市政アドバイザー制度を具体的にどのように描いているのか。今日は岡山大学の中村教授に来ていただいておりますが、学識経験者も必要でしょうが、現場サイドで、例えば極端な例を言ったら農作業に長けている人など、有効にそういった人を詮索して、アドバイザー制度をつくった方が中身が出るのではなかろうかと個人的には思う。もちろん学識経験者の方もいながら、どういう風に具体的に描いているのか聞かせてほしい。</p>
<p>中村会長</p>	<p>岡山市に住んでいるが岡山市の広報の紙質がそんなに悪いと感じたことはない。他と比べる機会もない。浅口市の紙質を見ると良いのかも知れないが。観光パンフレットなど行政の場合は割と写真とかふんだんに予算使って良いものができることが多いので節約できるところはできるだけ節約して。窓口業務のところは確かに暗いと声がかげづらいので、そこは昼休みと言っても市民の方には昼休みにしか来られない人いるので、そういったところは臨機応変に対応していけばよいのではないかな。</p> <p>それから健康寿命のことですが、子育て支援の施策も含めて効果を上げている自治体というのは、新聞でもニュースでも取り上げられていますので、アンテナを張って、そういったところをどうしてそれが上手くいっているのか、県内だけでなく日本国中、テレビ、新聞あるいは人づてでもそれを調べて現地を見つけるということはとても重要なことなので、ぜひやっていただきたい。</p> <p>最後のアドバイザーの件ですが、それは質問なので回答をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>アドバイザー制度ですが、このプランの策定をしたのが、平成28年度であり、29年度からこのプランを実行していくこととなり、平成29年度に検討を行って平成30年度からやっていくことにしておりますので、年度的にはこれです。市政アドバイザーですが、今日来ていただいている中村先生に昨年度にお願い、アドバイザーということで、総合計画や今回の行財政改革などで意見をいただきながら進めているところです。一般の市民の方々等のアドバイザー制度につきましては、今日ご意見いただきましたので、他市町をよく参考にして検討していきたい。</p>

<p>小野委員</p>	<p>No. 2 5 異動希望調査の実施と効果の検証で、異動希望を実施したら1件の提出とあるが、そもそも職員が希望する職務に就けることにより、能力開発の促進、勤務意欲の向上を図ることが内容としてあり、確認ですが1件とあったのは、全体で1件ということでしょうか。ということあれば逆になんで1件しかなかったのですかという疑問があるが、もしこういう制度であればもっといっぱいあるはずでは。もしこれ1件ということであれば恐縮ですが、行政改革を行うにあたっての職員の意識改革、これぜったいに違うと思っ ていますが、あまりそういう意識がないのかなというとらえ方になる。詳細を教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>異動希望調査においては、この年は1件ですが、年によって若干変動がある。出て来た年の翌年度の人事に向けて、直ちにこれが反映される場合もあれば、人事のサイクルの中でどうしても動かしがたい場合もあるので、それはその翌々年度で参考にするという形で活用しています。確かに、この異動希望調査というのは少ないと思われるのだが、全体的に公務職場において異動希望調査をやっているところはそう多くはないのではないかと。岡山県や備前市がやっていると承知をしているが、実は全県的な意見を聞いたところ、異動希望調査の取り扱いについて内部的にはいろいろと苦慮しているようなところもあり、この制度のあり方については、いろいろ内部的にも検討していかなければならないと考えています。ただご指摘のように、「自分はこういう仕事をしてみたい」、「こういう風な成果を上げたい」というような意欲を持った職員がおりますと、こういった希望が上がってくることを期待しての制度ですが、確かに30年度は1件しかなかったというのは、やはり職員の意識、こういったものを高めていく必要があると考えている。</p>
<p>亀高委員</p>	<p>前段言った前提条件のところ、部長の方が言われたが、現状の中で情報公開を捜査中ということはどういうことか。分かる範囲で示していただきたい。そうでないとどうなっているか分からない。2年も3年も4年も経ってどうなっているのか。聞かれても分からない。 それから26歳と年齢は載っている。名前はすぐに分かる、歳が載っているから、調べなくても大体の人は分かる。個人のプライバシーを保護するために多分名前は載せてないとは思いますが、載せる場合も載せない場合もあるだろうが、年齢が載っているのであれば、別にそ</p>

	<p>の人がやっていることが正しいことではないのだから、適切な情報公開が必要ではないか。</p> <p>それから今日は市議会の議長も参加されているので、議会事務局であった経緯がまったく分からない、ちまたで聞くだけ。金庫ならきちんと回さないと開かないわけでしょうから。広島中央警察署で8,000万円盗られた件ですが、その当事者は自殺した。その当事者が自殺したから警察署全員で8,000万円を全部返したらしいですが。そういうことなのでもし可能なら分かる範囲で説明してほしい。</p>
井上副会長	<p>私もその当時は、議員でおりました。たぶん平成27年頃だったと思うが33万円、ちょうど明るる日に出張があり、その費用33万円を金庫に入れていた。それから課長或いは職員の席の引き出しの2万円を盗られて、両方併せて35万円となった。ちょうど出張する日の前に持ってきたものが盗られたということから、外部から来たのではおかしいのではという話も出た。しかしその当時は、議長や副議長がおられるから、それぞれ任せておいたわけですが、そのような関係で、どう考えても外部からは来ることはないだろう。ただ、その当時誰が言ったか分からないが、その時ちょうど議会事務局の工事をしていて、だから工事関係者がやったのではないかという話もあった。それから今言った金庫の鍵は、課長の引き出しにいつでもあることはたいていの人には皆知っている。そういう関係でどうもおかしいということが表に出た。</p>
山内委員	<p>意識改革のことについてですが、私からのたつてのお願いですが、接遇マナーの研修をしているのでしょうか。各セクションによっては、サービス業とういのか市民に対するサービスのようものの提供もある。例えば窓口に来られた方に対して、何が言いたいかというと、先ほどのやり取りでもあったように臨時の職員が沢山いると思うが、一般の方が来られた際に臨時の方が立って対応されます、それが「えっと、えっと」という感じがあった時に、それを職員の方が知らない顔をされると、接遇マナーとういのか、市民に対する行政のサービスは私たちがやるんだとうい、そういった意識をしっかりと持って対応していただくとういことを切にお願いしたい。また接遇マナーの研修もしているのかとうい疑問も出てくる。</p>
事務局	<p>大変耳の痛い話ではありまして、実は浅口市、合併からしばらくして職員接遇マニュアルとういものを作りました。非常に簡素なもの</p>

	<p>ですが作成しましたところ、四国の某市から視察に来られた。なぜそれを知られたのかが分からないのですが、突然電話がかかってきて、行ってもよいかということで、「そのままうちも名前を変えて使わせてほしい」ということがありました。それを作った時には研修を何度かしましたが、ただご指摘のように、最近は職員研修で接遇を取り上げてやったという記憶がありません。やはり重ねてトレーニングをしていかないとなかなか続いていかないという面があるかと思えます。大変貴重なご意見ですので、また接遇についても研修も含めて取り組みをする。</p>
<p>中村会長</p>	<p>時間の方が近づいてきたので、本日はこの辺りで終了したいと思います。では事務局におかえしする。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは閉会にあたり井上副会長よりご挨拶をいただく。</p>
<p>井上副会長</p>	<p>今日は皆さんに慎重なご審議をいただき感謝する。いろいろなお立場から非常に有益なご意見をいただいた。市におかれては、今日のご意見をもとに、取組のさらなる推進、改善を図っていただきたい。今後ともこの懇談会についてのご協力をお願いします。</p> <p>【閉会】 14 : 54</p>